

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 山口市立大殿小学校 】

1 実践テーマ	I・II (III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年 全3クラス 96名 第5学年 全4クラス 119名 第6学年 全3クラス 92名
3 展開の形式	○学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (人権教育講演会) ③ その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者と健常者とがパラスポーツを一緒に楽しむことを通して、共生社会の参画者としての意識を高め、課題の解決に向けた実践的な態度を育てる。</li> <li>・オリンピック水球日本代表選手との交流を通して、自らの生き方について考えるとともに、スポーツに関する関心・意欲を高める。</li> </ul>
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習では、総合的な学習の時間での福祉学習「バリアフリーについて知ろう、考えよう、行おう」において、手話や点字、白杖等の体験に加え、通常の車いすによる体験を行った。体験を通して、車いす利用時の課題や、相手を思いやる心について学習した。また、オリンピック、パラリンピックに関する本やインターネットを使って、オリンピック、パラリンピックの歴史や意義について学習した。</li> </ul> <p>【人権教育講演会】</p> <p>演題：夢の実現に向けて 講師：東京2020オリンピック水球日本代表 河口華子 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢をもち、その夢を実現させていくために努力を重ねていくことの素晴らしさを知り、様々なことに挑戦していこうとする気持ちを高めた。</li> </ul>



	<p>【スポーツ用車いすによる車いすバスケットボール体験】  講師：山口県車いすバスケットボール連盟 田邊大介 氏 他2名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 車いすバスケットボールのルールや、通常の車いすとスポーツ用の車いすの違いについて学んだ。また、スポーツ用車いすの基本操作を学び、実際に車いすバスケットボールを行った。児童は、ルールや道具を工夫することで皆が体を動かし楽しむことができることに気づいた。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事後学習では、共生社会の大切さや可能性に挑戦することの素晴らしさについて話し合った。</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地元のオリンピック日本代表選手から、夢を実現させるための心構えを学んだことにより、児童は、自己の生き方を見つめ直すとともに、スポーツをはじめとする様々なことに挑戦しようとする意欲を高めた。</li> <li>• 児童は、車いすバスケットボールの体験学習を通して、違いを理解し環境を整えることで、障害があってもスポーツを楽しむことができることを実感することができた。</li> <li>• 事後のアンケートでは、車いすを使ったスポーツに興味があった児童の割合が95%、社会や人のために役に立つことがしたいと感じた児童の割合が90%であった。今回の学習を通して、共生社会の一員としての素質の高まりを感じる事ができた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童にとって身近で親近感のわく方との交流がよいと考え、地元の方もしくは地元有缘の方に講師をお願いした。</li> <li>• 事前学習では、地域人材の活用により、専門的・体験的な活動を充実させ、児童の関心や意欲の向上を図った。</li> </ul> 
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 講演会の対象学年が複数あることもあり、新しい講師を探していたところ、山口県教育庁学校安全・体育課から講演会の講師を紹介していただき大変助かった。</li> <li>• 体験活動を一層充実させるための人材、道具の確保が課題といえる。</li> <li>• 今回の取組を今後の学習や生活へとつなげ、オリンピックやパラリンピック等への興味や関心が継続していくための工夫が必要である。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 来年度も主として4年生を対象に、総合的な学習の時間に福祉学習を位置づけ、福祉の視点のみならず、人生を楽しむ手段の一つとしての障害者スポーツの理解を促すような取組を行っていきたい。</li> </ul>